

KRC WEB REPORT

徒然想

20世紀の後半にはベルリンの壁も崩壊し、21世紀には平和な時代がやってくると明るい希望を抱いていました。しかし、2001年に米国で起きたテロ以来、アフガニスタンやイラクをはじめ様々な戦争や紛争が絶え間なく発生し、さらにテロリズムの拡大を誘発しながら多くの民間人が犠牲になり続けている現状は、とても平和だとは言えません。世界の多くの人々は未来に希望が持たず、暴力が暴力を呼び、憎しみの連鎖が止まりません。全ての人は平和に生きる権利を持っているはずで、それを見失ってはならないと思いますが、そのために本当に必要なことは何か。そして今、自分にもできることは何なのか。その答えは簡単に見つかるものではないかもしれませんが、しかし、それを考え、問いかけ続けることを放棄してはいけないうつ次第です。どうか、ウクライナで戦火に追われる人々が少しでも早く安心して過ごせる日が訪れますように。

TECHNICAL TOPICS 今月の技術情報

石見銀山の操業当時の坑内作業をAR(Augmented Reality)でリアルに体感

島根県大田市は、文化財多言語解説整備事業(文化庁補助事業)により、世界遺産・石見銀山の久保間歩(坑道)と世界遺産センター内の間歩模型で、1890年代の操業当時の様子をバーチャル体感できるARアプリを制作しました。これは、2020年に制作した清水谷製錬所跡ARに続く事業です。

間歩内には操業当時の枕木と犬釘が一部のみ残っています。これら遺物の位置と間歩の形状を3次元計測により捉え、CGで精緻に再現した枕木やレール、トロッコ、鉦夫を現況形状に正確に合わせて配置しました。専用タブレットをマーカーにかざすとそれらのCGが画面上に浮かび上がり、操業当時の作業の様子を体感することができます。また、専用タブレットのカメラがマーカー認識した後にマーカーから外れても、visual SLAM(Simultaneous Localization and Mapping)により、一定範囲であれば正確な位置にCGを表示させ続けることができます。

今回制作したARアプリは、日本語、英語、中国語(繁体字・簡体字)、韓国語の5言語に対応しており、2022年4月末より公開されますので、ぜひ現地で体験してみてください。

※)間歩[まぶ]:鉦山で、鉦石を取るために掘った穴。坑道。



操業当時のまま残っている枕木と犬釘



3次元計測データと再現CGの配置検討



アプリトップ画面



マーカーにタブレットをかざす



画面上に操業当時の作業の様子が再現される

○当アプリは、大田市から当社が委託業務を受け、株式会社 BeRISE(広島市)と制作しました。

ARは金・土・日曜、祝日限定の久保間歩坑内ツアー、世界遺産センターで体験できます。

石見銀山世界遺産センターHP <https://ginzan.city.oda.lg.jp/>

久保間歩一般公開限定ツアー <http://www.iwami.or.jp/ginzan/>

あわせて弊社ホームページもご覧ください。 <https://www.krcnet.co.jp/topicsweb/topics169.htm>